

# 令和元年度摂津市立味舌小学校第4回学校協議会 要点録

令和元年10月30日(水)19:00~20:35

於：味舌小学校校南棟1階学習室

記録：平野 憲昭(事務局：本校教頭)

出席委員：榎谷佳純、以登田毅、門野さとみ、吉田栄子、中居正一、小澤香織  
高森佳代子、河合隆之、角田幸代

欠席委員：前田文雄 (敬称略)

傍聴者：千里丘小学校校長 撰田裕美、千里丘小学校教頭 田中大介

学校出席者：校長 前馬晋策、教頭 平野憲昭、教諭(児童生徒支援担当) 大南圭司

## 1. 校長より挨拶

本日は、傍聴者として千里丘小学校より撰田校長と田中教頭にお越しいただいている。

(撰田) 教職員に学校協議会についてなかなか浸透しないという現状があり、昨年度より話を聞いていた味舌小学校の学校協議会の運営のあり方について学ばせていただきたい。

## 2. 報告・協議事項

### (1) 夏休み明けからの学校の様子

|             |                        |
|-------------|------------------------|
| 9月 2日       | 足が速くなるダンス2年            |
| 9月 5日       | 運動場石拾い                 |
| 9月 6日       | 足が速くなるダンス5年            |
| 9月 9日       | 一中公開授業研                |
| 9月10日       | 運動会練習                  |
| 9月11日       | 夜の大雨                   |
| 9月27日       | 運動会前日準備                |
| 9月28日       | 運動会                    |
| 10月 3日      | 一中体育大会                 |
| 10月 9日      | 5年50m走タイム測定(足が速くなるダンス) |
| 10月11日      | 避難訓練(火災)<br>支援学級研究授業   |
| 10月17日      | 5年稲刈り                  |
| 10月18日      | 校内研修(愛着障害について)         |
| 10月21日, 22日 | 修学旅行                   |
| 10月27日      | 日曜参観<br>PTAカーニバル       |

(校長) PTA カーニバル等で地域の皆様にも大変お世話になった。落ち着いて学習に取り組んでいる児童の様子を見ていただくために、今年度の日曜参観は普通の授業をご覧いただいた。

夏休みが明けてからの学校・児童の様子を伝える。

今年の9月はかなり暑く、平均気温が昨年より高かった。その中で、運動会の練習を行ってきた。テントを設営する、休憩時間をこまめに取るなど熱中症対策に配慮した。大雨が降るなど天候も心配されたが、当日は好天で、無事に運動会を実施することができた。結果は赤組が僅差で勝利したが、白組に泣いて悔しがっている児童もいた。裸足になって指導している教員もいて、気持ちが表れている姿を見ることができた。若い教員が増えている現状は、課題でもあるが、育成するという使命をいただいていると考えている。

1学期から取り組んでいる「足が速くなるダンス」を2年と5年で引き続き取り組んでいる。複数のインストラクターに学校へお越しいただき、ダンスを指導していただいた。5年生の取組みの様子が10月2日発行の産経新聞夕刊の一面に掲載された。走るフォームが確実によくなっており、取組みのまとめに50m走のタイムを計測すると、学年平均で0秒26縮まり、成果が見られた。

一中校区連携の充実を図るために、第一中学校及び摂津小学校と積極的に関わるようにしている。

児童生徒支援加配教員の大南と一緒に、公開研究授業や体育大会などに出席した。卒業生が一生懸命取り組んでいる姿を見ることはやはりうれしい。今後さらに小中連携を充実させ、9年間を見通した一貫教育活動を行う必要があると考えている。

火災の避難訓練を行った。家庭科室から出火したという想定であった。様々な場面を想定し、緊急時に判断して避難できる児童を育成したい。

先日、支援学級の研究授業を行った。支援学級の研究授業を実施している学校はまだ少ないが、支援教育の充実は本校の課題ととらえており、積極的に取り組んでいる。摂津支援学校から藤城指導教諭にお越しいただき、個別の課題に沿った授業づくりについて学んだ。また、和歌山大学より米澤教授にお越しいただき、愛着障害について研修を行った。

6年生が修学旅行で広島に行ってきた。有名な広島のお好み焼きをグループに分かれてお店で食べた。修学旅行の主な目的は、平和教育と自然体験。平和公園では、外国から来られた方がたくさんいた。平和資料館がリニューアルされて、家族が引き裂かれたことなど、戦争によってもたらされた悲惨な事実が強調された展示が多くなっていた。ボランティアガイドとともに碑巡りを行い、被爆体験を伝承してくださった。戦争を実際に体験された方が少なくなっており、戦争の悲惨さを経験された方の話を今後語り継いでいかなければならない。蒲刈島では、天体観測、藻塩づくり、カッター体験などの自然体験を行い、充実した修学旅行となった。

日曜参観を実施し、その後PTAカーニバルが盛大に行われた。行事を企画するとき、去年どおりではなく、目的をとらえて、何をすべきかを考えている。今年度の日曜参観は授業をしっかり見ていただいた。カーニバルも改善していき、児童が様々な体験ができるような取組みにしてはどうかとも思っている。

大阪人間科学大学と連携して、「未来科プロジェクト」を行う。地域・遊び場・SNSなど現代の抱える課題を題材として、児童が独自の解決方法を考える。大阪人間科学大学が作成した「答えのないドリル」を4年生が取り組む。

(2) 行事に関わって（運動会、修学旅行、校外学習など）

(校長) 運動会を暑い時期に実施しているが、どう思われるか。

(委員) プールが終わってすぐに運動会の練習をしているので、暑さは心配。もう少し遅く運動会を実施してもいいかもしれない。春に実施してもいいが、学級開き後すぐなので難しいか。時期もそうだが、運動会の内容を再検討する必要があるのではないか。

(委員) 今年は暖冬らしいが、気候は読めない。思い切って大きく変えないとあまり変わらないように思う。台風が発生しやすくなる時期は影響を受けやすくなる。

(委員) 春先がいいと思う。準備が大変な部分があるとは思いますが、運動会をきっかけに学級をまとめていくこともできる。5月に行っている学校もあり、2学期は落ち着いて学校生活を送れているという話を聞いた。

(校長) 今年度の平均気温は昨年度よりかなり上がっている。各月の平均気温を見ると、5月と10月では同じような状況だが、体感温度は違う。千里丘小学校は、今年度11月に運動会実施日を変更したと聞いているが、ご意見をいただきたい。

(撰田) 千里丘小では、現在風邪を引くなど体調を崩している児童が増えてきている。この時期は風邪が流行る時期でもあるので運動会に影響が出ないか心配している。運動会の実施日の変更に当たり、修学旅行などの他の行事の時期も変更した。幸い今年は暑くない日の実施だったが、修学旅行を9月に実施するのは厳しい場合もあるかもしれない。

(校長) 変更するという事はいつ頃から考え出したか。

(撰田) 昨年の11月頃から考え出した。

(校長) 修学旅行の日程は1年前に決まるし、他の学校行事予定を変えていくにも準備期間が必要。

(委員) 5月に運動会を実施している学校が増えてきているという話は聞いている。時期を遅らせるとインフルエンザなどの影響も受けやすくなる。5月は学校行事もあまりないので実施可能ではないか。

(校長) 今年度は、運動会の練習時間を減らした。見栄えという点では内容は少し落ちたかもしれないが、教員と児童の一生懸命な気持ちは変わらない。5月の連休明けから練習を開始しても当日に間に合うようなスケジュールでいけると思う。

(委員) 摂津市で行われる「こどもフェスティバル」の経験では、5月もかなり暑かった。気温のことを考えると11月実施の方がいいのかもしれない。

(校長) 他の行事や気候などさまざまことを考慮する必要がある。いただいたご意見を参考にして、運動会の時期を検討する。

(校長) 来年度の修学旅行の行先は広島県で変わらない。宿泊地は福山市のしまなみビレッジに変更する。広大なグラウンドがあり、カッター体験などの自然体験もできる施設である。旅行取扱い業者は毎年選定を行っている。各業者へ仕様書を出して、それをもとに企画書を提出させ比較し、検討している。修学旅行の費用が約2万5千円かかるが、小学生の旅行として適切かどうか。4、5年生保護者対象の修学旅行アンケートでは、目的・行先・費用について、広島に行くことについて概ね賛成していただいている。

(委員) 確かに高額だが、広島には一度は行っておくべきだと思う。平和公園での学びは大人になってからも記憶に残る。予算の面でもう少し下がればいいかなと思う。

(校長) 消費税の影響は出ている。しかし、摂津市内で修学旅行の行き先を広島から変えようとしてい

る動きは今のところ見られない。

(委員) 福山市なら例えば「福山通運」とのつながりで、キャリア教育としての体験に取り組むなどのメリットがあるのではないか。

(校長) 行き先を広島にしているのは、平和教育を充実させることを大切にしてきたという経緯があるが、それだけでなく、自然体験などもさらに充実できればと思う。

### (3) 全国学力・学習状況調査の結果及び分析について

(校長) 今年度の全国学力・学習状況調査の結果・分析を保護者にも周知し、HPにも掲載している。本校の平均正答率は、国語が大阪府平均とほぼ同じで、全国平均と比べると数ポイント低い。書くことが好きな児童が多いが、条件に合わせて自分の文章で書くことが苦手。算数は全国や大阪府平均とほぼ同じ。算数については伸びてきており、国語も本校の研究の成果が出て、伸びてきている。知識・技能は定着してきているが、それを活用する力にまだ課題がある。

点数だけで学力を図ることはできないが、結果から見えてくることも多く、今後取り組むべき課題はまだある。詳しい状況を知っていただくことによって、様々なご意見をいただき、今後の方針を立てることが必要だと感じている。

(委員) 広報紙に摂津市の全国学力・学習状況調査の結果が掲載されていた。正答率を知ることでより詳しく学校の課題が見えてくる。

(校長) 今年度取り組んでいる国語科「書き換え学習」は効果的ではあるが、もっとシンプルに焦点を絞って、児童の実態に合った取組みにする必要がある。

点数という結果だけを見るのではなく、学習のプロセスを大切にしたい。考え方を構築することが求められている。また、主体的に学ぶ態度・習慣を身に付けさせていきたい。一中校区で「チャレンジスタディ」という取組みをしており、自分で課題を見つけ、自主的に学習を進めることができるようにしたい。しかし、主体的に学習に取り組ませるのは非常に難しいことである。

(委員) 自分の興味のあることを追求することは主体的に学ぶことにつながると思う。たとえば、船が好きな子どもが船のことについては、いつまでも学び続ける。

(校長) どんな学習をしたらいいかわからない児童もいる。よくできているノートを掲示することで、学ぶサンプルとして参考になるのではないかと考えている。

(委員) 放課後しゅくだい広場で、わからないところを友達に聞くことがあるが、このように友達から学ぶことで自分の力につながることもある。

(委員) 自分が興味のあることについては、自分でどんどん学習している。それが学校で学ぶべき内容につながるのかはわからない。「はっきり答えがわかるものが好き」という傾向はある。もっと大人と関わることで「自分見つけの場」ができればいいと思う。

(校長) 好きなことを見つけることができない児童がいる。「あの先生の理科の授業が面白いから虫が好きになった」など、そんな面白い授業ができているのかどうか。研究発表を本校で行うので、是非お越しいただき、授業を参観していただきたい。

生活質問アンケートの結果で気になることは、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目が全国平均より低かったことである。本校でも少なからずいじめはある。いけないものだと感じている人がいることが抑止力になるので、日ごろから人権感覚を磨き、他者を大切にできる人になってほしいと思っている。

#### (4) 学校評価アンケートについて（昨年度の結果、今年度の内容・実施時期）

(校長) 学校評価アンケートの内容を昨年度大幅に変更した。より詳しい内容にし、学校教育についてご意見をいただき、よりよい学校教育にしたいと考えている。このアンケートは、児童・保護者・教職員を対象に行う。学校の運営については、点検する必要がある。学校でも振り返るとともに、保護者や地域の皆様にも点検していただき、経年比較をしていくことで意味を持つ。

昨年度否定的な回答が多かった設問は、「キャリア教育」「ICTに関わる教育・指導」「楽しく、わかりやすい授業」「生活指導方針の明示」「きめ細かい家庭への連絡、教育情報の提供」など。

(委員) 味舌小学校の生活指導方針は明確にはなっていない気がする。

(校長) 校則をたくさん決めることがよいことなのかは疑問。しかし、最近規範を守ることという意識は薄れてきているのも事実。どうすることが生活指導方針を明確にするということなのかと悩む。

(委員) 今の中学生は、薬物は危険なものであるという知識はあるという報道があった。これまで「薬物は危険だからやったらあかんよ」ということを伝え続けてきた。それでも使ってしまう人は絶えない。問われているのは「やってはいけないことをきちんと守ろう」という意識をどう持たせるのかということ。例えば、車が全く走ってなくて、信号が赤だった時に渡るかどうかというのは、生活力を付けるべきなのか、それでも守り通すべきなのか、順法精神をどこまで養うのかなどを考える。

大阪市の大空小学校のように「自分がされていやなことは人にしない」が唯一のきまりという学校もある。

(校長) かつては「おてんとさんは見てるで」「壁に耳あり障子に目あり」と言われることできまりを守らなければならないという意識もあったが、今ではそれも薄れてきている。若い人との価値観が違ふと感じる場面が増えてきている。だからこそ、PTA が大切だと思う。子育て世代の保護者との規範意識のギャップについて、話をしていく必要があると考える。

(委員) PTA 会長として、周りの方との年齢差が出てきているが、自分の考えにとらわれ過ぎずに、若い世代の価値観が社会にマッチしていることもあると思うので、しっかり話を聴きたい。

(委員) 参観は、保護者が廊下で見ている人が多くなった。昔は、教室の後ろに並んで見ていたし、母が着物を着てくるなど、学校が神聖な場所のようだったが、今はそうでなくなっている。廊下でしゃべることが気になって声をかけたこともある。

(校長) そのような価値観の変化というのはあるかと思う。逆に学校では、参観日に教員がスーツを着るなど、意識は変わってきている。

昨年のアンケートで「担任以外に相談できる先生がいる」という設問の肯定的回答が低かった。これは、児童への発信が弱いのではないかとも思う。児童生徒支援加配にもその役割を担ってほしい。児童が先生に相談することは難しいのはなぜか。

(委員) 先生が相談相手に必ずしもなる必要はない。相談相手になろうと努めることは必要だが。要は、子どもにとって相談できる人がいるかどうか。コミュニケーションを取れる相手を作れるように支援すること、子どもを理解する人をもつことが必要。その相手が友達でもいいし、地域の人でもいいし、社会福祉的なものでもいい。

(委員) わが子が小学生のころ、担任がしんどいことを先に察知してくれて、支えてくれた。相談できるというのではなくて、自分のことをわかってくれる先生がいてくれると、安心して学校に行けるし、将来まで頑張っていけるのではないか。そのような先生がいるのは助かる。

(校長) 教員間では、「同僚性」「経験の浅い教員の育成」について課題があったが、学校経営サポーターを中心に校内研修をすることで少しずつ改善してきている。かつては同僚と休日なども一緒に過ごすこともよくあったが、最近は仕事とプライベートを分けることが多くなっている。

(委員) それは一般の会社も同じ傾向がある。

(校長) 仕事でしんどいのには誰も助けてくれないという一方で、話を聞こうかという忙しいから帰るということもある。普段からコミュニケーションを取れる関係が築けていることが大切。教員間で児童の話をきちんとしていきたい。

#### (5) その他

(校長) コンクール等に応募している児童も結構いて、入選している児童が出ている。健康ポスター（6年）・摂津市ごみ減量化・環境絵画展（4年）・明るい選挙啓発ポスター（3年）・摂津市読書感想文・せつつしこども展覧会・大阪こども「本の帯創作コンクール」など。

どんどん応募して、自分自身の世界を広げてほしい。

#### (6) 次回の予定について

・報告・協議事項は次のとおり

① 学校評価アンケート結果速報

② 児童生徒支援加配教員について

③ 平和登校日アンケート、修学旅行アンケート結果

・開催日時は、12月12日(木)19:00より。本校学習室にて。